

障害者の多様なニーズに応えるために、当研究所は7つの異なる領域をカバーしています。

○脳機能系障害研究部・・・脳機能に障害を持つ方が円滑に日常生活を過ごすのに必要な支援を行うために、先端の脳神経科学に基づき、BMIの研究や、高次脳機能障害をもつ方への支援技術の研究開発、発達障害をもつ方への支援技術の研究開発などを行っています。

○運動機能系障害研究部・・・ヒトの身体機能に関する分子レベルから行動に至るまでの幅広い基礎研究を通して、運動障害の特性や制御メカニズムを解明することを目指しています。基礎研究に基づいて、障害者の運動機能障害のリハビリテーション、二次障害の予防、支援機器や方法論の開発につなげられるよう、研究を展開しています。

○感覚機能系障害研究部・・・感覚器障害、感覚認知障害や音声言語とコミュニケーションの障害について研究し、それらの早期発見・評価・治療方法や、これらの障害をもったときにコミュニケーションや社会参加を可能とするような方法を探索しています。

○福祉機器開発部・・・福祉機器開発部は、「ひと・生活・もの」をキーワードに、ユーザーの思いを支える福祉機器の開発と評価に関する研究を行っています。研究テーマは、先端福祉機器開発、試験評価・規格、臨床評価・適合、精神・認知機能支援機器を柱として、フィールド・ベースド・イノベーションの考えを重視し、現場密着で研究活動を実施しています。補装具費支給制度や国際規格、臨床評価に関連する研究も行っています。

○障害工学研究部・・・障害機能の生体工学的な計測・評価技術、低下した機能の代替・補償・回復を行うための技術の研究・開発、並びにロボット技術を活用した研究・開発により、障害のある人のQOL向上、社会参加支援に寄与し、あわせてこれらの研究の推進を通じて、リハビリテーション工学の発展並びに人材の養成に貢献することを使命とします。

○障害福祉研究部・・・障害者の社会適応に関する社会学的及び心理学的調査研究を実施することを目的に設置されました。

○義肢装具技術研究部・・・臨床サービス、研究開発、社会貢献の3つを柱とし、より良い義肢装具の普及を目指しています。



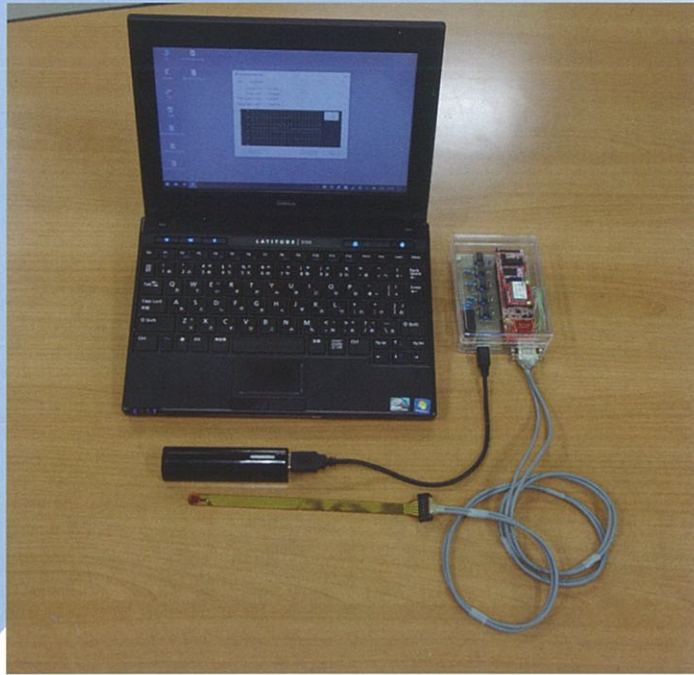
H.C.R.2018
展示:4-06-1

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 臨床現場を科学で支える!



当研究所は、日本におけるリハビリテーション技術の研究開発の中核機関として1984年に設立されました。

臨床現場を科学で支える



極薄シート型の剪断力測定用シートの開発研究を紹介します。



臨床で簡便に行える座位姿勢の計測方法についての研究を紹介します。



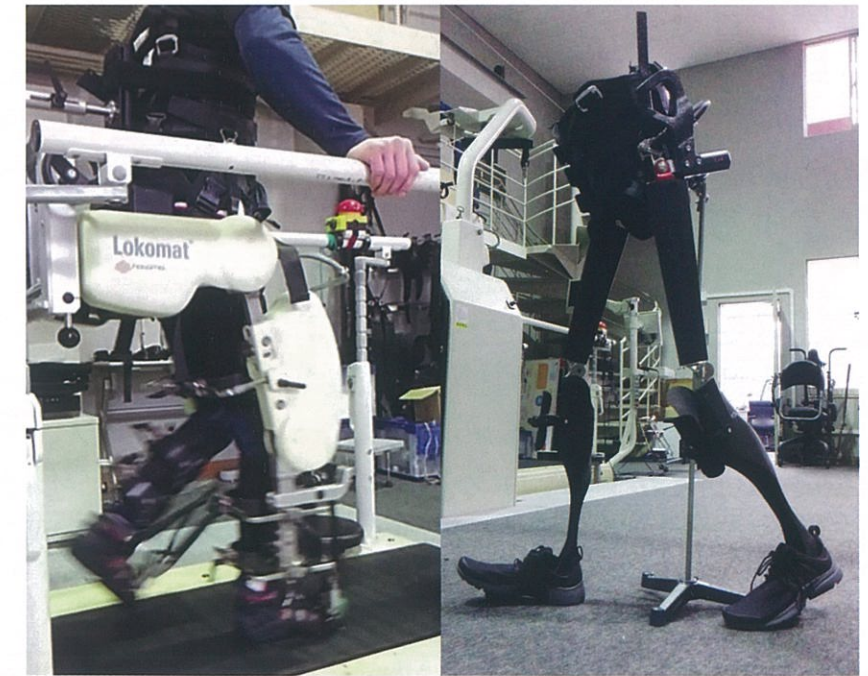
脳卒中後に生じる後遺症の症状診断ツールや、リハビリ技術を紹介します。



3Dプリンタを活用して、今までにない機能をもった自助具を製作する研究を紹介します。



訓練用教材として生まれた、組み立て容易なダンボール製車いすを紹介します。



再生医療による神経の修復・再建の後には、機能を取り戻すためのリハビリテーションが不可欠です。ロボティクスによる歩行リハビリ、カーボン装具の開発などの研究成果を紹介します。